

地球温暖化は世界で大きな問題となっており、その原因となる温室効果ガスの削減は大きな課題です。そのため、2050年に温室効果ガスの排出を実質ゼロにする「カーボンニュートラル」の実現が目標となつていま

遊びながら楽しく遊ぶ 若い世代への意識啓発に



「カーボンクエスト」の実現が目標となつていま

は、楽しく遊

びながらカー

ボンクエスト

の仕組み

や考え方に

ついて学べる

教材として、「

カーボンクエスト」を80

セット整備して

本教材は、CO₂を減ら

すための技術や工夫が

書かれている「CO₂削

減カード」、広島

のCO₂削減に向けた

取り組みが書かれて

いる「企業カード」、

ゲーム性を高める「便利

カード」を駆使して、

ドラゴンが排出したCO₂

と同量の削減(「カー

ボンクエスト」を

目指します。

各カードには、カー

ドの内容に関するCO₂

の排出・削減について

の情報が書かれていま

す。カードゲームで遊

んだ後に振り返りとし

て確認することで、遊

ぶだけで終わらず、CO₂

の排出・削減につな

がる行動について学習

することができま

す。

活用事例の紹介

1月19日に、ひろぎんエリアデザイン株式会社が尾道市の小学校5年生を対象に実施し



カーボンクエスト(上)、カーボンクエストで遊ぶ子ども達(下)



※「カーボンクエスト」は一般社団法人広島青年会議所より寄贈いただきました。

た、里海つくりがテーマの環境講座で「カーボンクエスト」を活用しました。講座のポイン

◇

◇

として、ドラゴンが出すCO₂量は大きい

のに対して、「CO₂削減

カード」などで削減

できるCO₂量は小さい

ことから、CO₂は「出

すのは簡単だが、減らすのは大変」というこ

となどを伝えました。

体験した児童はゲーム

を楽しむ、自分でで

きるCO₂削減の取り組み

について考える機会

となったようです。



里海つくりがテーマの環境講座

GSHIP 海ごみイベント

チーム対抗で清掃活動

GPS機能を活用したクイズラリー

3月17日(日)、GSCHIP(広島県)の主催で「エディオンピースウイング広島周辺まちなか清掃活動」が開催され120人が参加、当協会も参加しました。参加者には、スポーツウェアなどを回収してアップサイクルしたオリジナル軍手(サンフレッチェ広島とのコラボデザイン)がプレゼントされました。

清掃活動は1チーム5人以内のチーム対抗で行われ、クイズラリー(全5問、1問正答で5ポイント)と回収したごみの量(10gで1ポイント)でポイントを算出、順位付けが行われました。クイズラリーはスマートフォンのGPS機能を活用し、チェックポイントの周辺に到達するとクイズに解答できるというしくみで実施され、海ご



そごう広島店ではペットボトルキャップアートの製作ブースなどが展開された

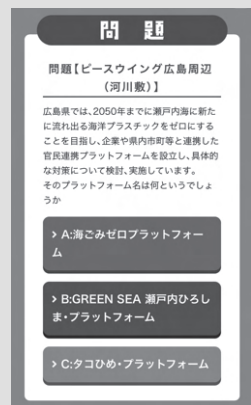
み問題やプラスチックごみに関するクイズが出題されました。

約1時間の清掃活動で69.34kgのごみが回収され、大きなものでは、炊飯器や自転車のサドル、ヘルメットなどが回収されました。なお、1位のチームはクイズを5問正解、約8.5kgのごみを回収し、表彰式でサンフレッチェ広島アンバサダー森崎浩司さんより選手のサイン入りユニフォームが手渡されました。参加者からは「街中でもこんなに多くのごみが落ちていることに驚いた」という声が多くありました。

また、清掃活動と併せて、そごう広島店ではペットボトルキャップの回収およびペットボトルキャップアートの製作、海ごみ問題やペットボトルのリサイクルについて学ぶことができるブースが設置され、来館者が海ごみ問題について知るきっかけづくりが行われました。

当協会では、引き続き清掃活動などの事例を紹介してまいります。

(地域活動支援センター)



クイズラリーのスマートフォン画面(上)、120人が参加し、約70kgのごみを回収した(下)

環保協の 環境生活 センター

(37) 環境計画課

廃棄物処理施設のコンサルティング

検討を繰り返し、地域社会の安全・安心へ

私たちの暮らしや、事業活動に伴って、日々さまざまな種類のごみ(廃棄物)が出ます。出たごみは法律に基づいて

適正な処理が必要で、環境生活センター環境計画課では、ごみの適正処理に向けたサポートをするため、大きく

2つの業務を実施しています。

一つ目は、廃棄物処理施設の設置を計画する

市町への支援で、ごみをどのように処理するかを定める基本計画や災害時に対応する処理計画から、ごみ処理施設の設計や適地選定、建設工事の施工監理まで

コンサルティングしています。施設を適正に運営や延命化するための精密機能検査や、運営

を保全するため、施設を設置するために必要な調査を実施しています。廃棄物処理施設には、ごみを燃やすための焼却施設やごみを資源化するためのリサイクル施設、最終処分場などさまざまです。これら施設の設置にあたっては、

あらかじめ周辺の生活

環境計画課では施設建設専門の技術者と環境影響評価専門の技術者との間で、日々検討を繰り返し、環境に

配慮した施設計画を提案することにより地域社会の、安全・安心な

くらしを守るため貢献しています。

(環境計画課 田中日出夫)



リサイクル施設の鉄筋を検査している様子(上)、地元住民に環境への影響を説明している様子(下)

環境を調査し、設置後、環境に影響がないかを予測・評価し、可能な限り環境の負荷低減を図るための措置を事業者に提案しています。また、地元住民の意見に耳を傾け、地域特性を考慮した調査を計画し、事業者とともに地元

に受け入れられる施設計画を目指しています。

環境計画課では施設建設専門の技術者と環境影響評価専門の技術者との間で、日々検討を繰り返し、環境に

配慮した施設計画を提案することにより地域社会の、安全・安心な

くらしを守るため貢献しています。

(環境計画課 田中日出夫)